

エッセー

自然が育む力



5月に入り、美方高原自然の家は小学校の自然学校を中心に連日子どもたちの元気な声にあふれています。自然学校は4

泊5日。親から離れて生活するこの5日間は、その子の一生を左右するぐらいの影響力を持つています。自然学校は4

導などを行っています。しかし、指導する側は、提供しているプログラムなどが本当に子どもたちの力を伸ばしているのかを判断するため、客観的な数値を分析し調査・研究する必要があります。そこで過去3年、われわれは多くの学校に協力をいただき、調査を行ってきました。

「叱る」って難しい

その中で最近見えてきたのは、子どもに対する大人の関わり方によって、5日間を同じように過ごしても、子どもたちの成長の度合いに大きく差が出るという事実。

原因は幾つかあります。一つに「叱り方」があります。子どもたちのことを思って誰もが叱るはずですが、これが難しい。もし蛇をつついて遊んでいた子がいたら、あなたはどうしますか？よくあるのは「みんなを集めて説教スタイル」。

子どもが初めて蛇を見たら興味を持つのは当然なこと。子どもたちの行動の原理をどこかへ置き忘れ、単に「大人の事情」で叱ると、子どもたちが「自ら考え決定する機会」を先に奪ってしまします。苦労しても時間がかってもいい、けがも子どもには付き物だと考える勇気が必要です。関わる大人の心の小ささが、子どもの成長の大きさそのものを決めてしまっているのかもしれない。

普段の仕事や生活で建物の中ばかりいると、どうしても肩間にしわが寄り、叱っているつもりが、自分勝手に怒りやすくなりますね。時には森へ行きましょう。森の小道を散歩しましょう。目にも鮮やかな新緑を体いっぱい感じ、感動に満ちた心の言葉で語りかけた時、子どもたちの目の輝きはきっと増してくるはずです。

(尼崎市立美方高原自然の家所長 田中誉人)



時には森へ行きましょう